

平成29年度入学者選抜試験問題（推薦入試Ⅰ）
「小論文（地域学部地域学科地域創造コース）」出題意図

課題文は、『週刊東洋経済』第6644号（東洋経済新報社）の「特集 給料が上がる仕事 下がる仕事 PART2 あなたの仕事が消える？テクノロジーは仕事を奪うか」からの抜粋である。テクノロジーの進化による仕事の変化、様々な職場で活用されはじめているロボットについての記述を取り上げた。単純労働をはじめとした多くの仕事が機械にとってかわられつつあること、そして単純労働だけでない専門職などの給料の高い仕事であってもテクノロジーに代替されない保証はないというのがその趣旨である。いずれ働く人は、機械と対立していくのか、人手の少ない業界への機械の導入といった協働も視野に入れていくのかを考える必要が生じる。

問1ではまず、課題文の内容をふまえて、テクノロジーの進化にともない雇用がどのように変化していくのかということについて問いかける。課題文においては、雇用数の減少と働く現場の変化や最新技術の動向について提示しているが、それらをもとに、今、施策として情報化が促進され、雇用の現場でどのようなことが生じているのかといった点に関連する論旨を読み解く力をみる。

問2においては、情報の技術革新の進展のもと、テクノロジーの進化が、労働の現場における人の雇用を段階的に奪っていくことになるのか、それとも生産年齢人口の減少を補う形で協働でき得るのかということについて、解答者の見解とともに、技術革新がさまざまなシステムのもとに経済社会全体の中へ導入されていることについての知識をはかり、またその方向性についてさまざまな視点から見出すことのできる発想力と論理性をみる。

情報化の進展にともない、あらゆるものがインターネットにつながられ、ビジネスだけでなく私達の暮らしも大きく変化を遂げ、地域社会にまで影響を及ぼしつつある。提示した課題文の内容を的確に読み取ることはもちろん、事例では、単なる感想や理想論に終始せず、情報化の進展にともない、何がどのように変化し、どのような分野で応用できるのかということが記述されていることが望ましい。そして、人が介在する以上に効率化している仮想世界やシステム化が引き起こす障害や代償、そこに人としてどのように関与すれば良いのか、労働の現場における「人」と「機械」という相対立するが、しかし相互補完的なこれら二つの概念について、対極的、かつ客観的な見通しがなされていれば、よりポイントは高くなる。